

串間市文化財調査報告書第23集

市内遺跡発掘調査報告書

2002

宮崎県串間市教育委員会

市内遺跡発掘調査報告書

唐人町・池ヶ迫遺跡

2002

宮崎県串間市教育委員会

序

串間市内には各時代各種の埋蔵文化財が数多く点在しています。串間市教育委員会ではこれらの文化財を先人の残してくれた貴重な遺産と捉え、後世に伝え残すことが現代を生きる者の責務であるとの認識に立ち、その保護と活用に努めておりますが、各種の開発事業・造成工事等が埋蔵文化財に影響を与える場合が多く、文化財保護と各種事業との調整が慢性的な課題となっています。このような状況の中、当教育委員会では各種事業が市内に分布する埋蔵文化財に影響を与えることが危惧される場合には事前の試掘調査ないし確認調査を実施し、埋蔵文化財の有無・範囲・性格等を把握して文化財保護のための協議資料としています。

本年度は、串間市国民健康保険病院移設設計画に伴う調査を行い、その成果を当報告書として刊行することとなりました。当報告書が今後の文化財保護への理解に役立つとともに生涯学習・学校教育等の場において広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたってご協力いただきました関係諸機関並びに市民の皆様に対して、心より感謝申し上げます。

串間市教育委員会

教育長 岩下斌彦

例 言

1. 本書は、宮崎県串間市教育委員会が国県の補助を得て平成13年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書であるが、平成12年度調査で未報告分についても併せて報告している。
2. 発掘調査は、市内に所在する周知の遺跡並びに埋蔵文化財が包蔵される可能性のある地点のうち、平成12年度に第1次調査を実施した大字西方字唐人町の唐人町・池ヶ迫遺跡について第2次試掘調査を実施した。
3. 発掘調査は、串間市教育委員会が主体となり、同主事宮田浩二が担当した。
4. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 串間市教育委員会

教 育 長	岩 下 篤 彦
生涯学習課長	山 下 泰 文（総括）
生涯学習課長補佐兼文化振興係長	武 田 敦 夫（総括補佐）
主 事	宮 田 浩 二（調査・執筆・編集）
主 事	川 上 幸 典（庶務）
発 挖 作 業 員	石黒一利、川崎健治、川崎知子、河野純子 隈本スズ子、鈴木スガ子、鈴木正和、中野郁美子 中村光子、那須重夫、野辺ヨシ子、水元栄子 安山フジ子、矢野アキ子、吉田俊枝、渡会美久代
整 理 作 業 員	川崎知子、中村光子
調 査 指 導	宮崎県教育委員会文化課

5. 遺跡の名称は小字名による。周辺遺跡名については小字ないし通称による。
6. 本書中のトレンチ番号は第1次調査に引き続いでの番号を使用している。
7. 第3図「調査地順序模式図」及び第4表「トレンチ状況一覧表」の土層表記ローマ数字は一致する。
8. 第4表「トレンチ状況一覧表」中、旧地形の状況はおおむねアカホヤ火山灰層を基準としている。
9. 報告書抄録中の緯度・経度は国土地理院発行「1：5, 000 國土基本図」による。
10. 出土した遺物は串間市教育委員会で保管している。

目 次

本文目次	頁
第Ⅰ章 唐人町・池ヶ迫遺跡の調査	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査地周辺の歴史的環境	1
第3節 調査地の立地と現況	4
第4節 調査の内容	4
報告書抄録	16
挿図目次	
第1図 調査地及び周辺遺跡図	2
第2図 調査地概要図	4
第3図 調査地層序模式図	4
第4図 調査地トレンチ配置図	5
表目次	
第1表 県指定古墳一覧表	3
第2表 指定解除古墳一覧表	3
第3表 唐人町・池ヶ迫遺跡及び周辺遺跡一覧表	3
第4表 トレンチ状況一覧表	6～8
図版目次	
図版1 唐人町・池ヶ迫遺跡調査状況写真	9～13
図版2 唐人町・池ヶ迫遺跡出土遺物写真	14～15

第1章 唐人町・池ヶ迫遺跡の第2次調査

第1節 調査に至る経緯

当遺跡の調査は串間市健康保険病院建設計画に起因する。当計画は平成10年4月に串間市病院建設委員会が設置されたことにおいて具体的に始動し、建設委員会では予定地内に文化財が所在する場合の対応について協議が行われ、串間市教育委員会に対しては文化財の有無所在する場合の取り扱いについて質問があった。教育委員会においては、計画地の立地する台地（通称：善田原）には多くの遺跡が散在しており、計画地内においても地形上、埋蔵文化財の所在する可能性があることから試掘調査が必要であることを説明。これを受けて建設委員会は平成12年11月15日付で照会文書を発し、教育委員会では試掘調査を実施することとなった。平成12年度においては計画地内の作付状況等の事由により可能な範囲についての調査を第1次調査として実施し、本年度は未着手部分及び新たに追加された併設の福祉施設建設予定地を調査対象として第2次調査を行った。試掘調査は休耕状況に合わせながら平成13年7月9日から10月23日にかけて随時実施した。

第2節 調査地周辺の歴史的環境

今回調査の唐人町池ヶ迫遺跡は宮崎県の最南端に位置する串間市に所在する。串間市域は東部で日向灘、南部で志布志湾に面し、年間を通じて温暖な気候に恵まれているが、75%を山林が占め、残る25%の台地ないし平地部が主なる營みの場、遺跡の立地する環境となっている。台地の殆どは戸入火碎石を起源とするシラス台地で、市域の各所に広大に展開し、縄文時代から近世までの遺跡の大半が当台地上に分布する。調査地の所在する西方地区は歴史上串間地方の政治経済的中心となる地区で、シラス台地は地区を南北に縱貫する福島川の右岸に沿うように形成されて各時期の遺跡を立地させる。昭和8年に県指定となった福島町古墳は当時19基を数え、開墾や宅地化により墳丘を消滅してその多くが指定解除されているが、現在、福島小学校周辺の3号墳（長清見塚）・4号墳（剣城塚）・9号墳（霧島塚）・10号墳（万多城塚）及び福島高校東側のJ.R日南線沿いに位置する5号墳（毘沙門塚）が一部に変形は見られるものの墳丘を残している。中近世の代表的な遺跡としては櫛間城跡が挙げられる。城跡は上町地区に所在し、中世当地を地頭職として治めた野辺氏が建武二年（1335）に築城したとされる山城で、近世に入り所領した高鍋藩初代藩主秋月種長が廃城するまで串間地方の政治・軍事の拠点となつた。平成3～4年、串間市教育委員会において実施した発掘調査では、城の防御上の施設をはじめとして戦闘を意識した各種の遺構が検出されたほか、国内はもとより朝鮮半島・中国・タイ・ベトナム系の豊富な陶磁器も出土している。また、時期が前後するが、福島川対岸の北方地区の小丘陵上には弥生時代の祭祀遺跡と目される大田丘遺跡が所在し、線刻を施した壺などが出土のほか、箱式石棺やV字形周溝の所在が確認されている。

調査地の立地する台地（通称：善田原）に目を移すと、縄文時代では草創期の降帶土器を出土した別府木遺跡（市教育委員会、平成11年試掘）と後晩期の東堀遺跡（同、平成7年発掘）が挙げられる。弥生時代・古墳時代では、まず、調査地の西側で広城農道建設事業に伴つて調査された唐人町遺跡（宮崎県教育委員会、昭和62～平成元年）があり、竪穴住居跡8軒が検出されるとともに甕・壺・高坏等が出土している。同原因により台地の最も志布志湾寄りの南西先端部で調査された崩前地下式横穴群（県教育委員会、平成2年）では地下式横穴11基・石蓋土壙墓1基が検出されている。また、前述の福島町古墳中、墳丘の消滅した古墳のうちの2基は当台地上に存した。かつて調査地の北東側に隣接して存した錢龜塚の調査（県教育委員会、昭和28年）では墳丘上より偏平な板石を平積みにした石椁状遺構が検出され、丸玉・銀環・小玉・銅器・鉄鏃・須恵器片等が出土している。この他、「全國遺跡地図」に掲載の西方只塚も所在しており、これら既に確認されている遺跡に加え、遺物散布が認められる範囲も相当の面積が展開しており、多くの遺跡を立地させる当台地は串間地方の原始・古代を考察する上で欠くことのできない地域となっている。

引用・参考文献

- | | | |
|-----------|----------------------|-------|
| ①文化庁 | 「全国遺跡地図 宮崎県」 | 昭和52年 |
| ②宮崎県 | 「宮崎県史」資料編考古1 | 平成元年 |
| ③宮崎県教育委員会 | 「日向遺跡調査報告書」第二輯 | 昭和30年 |
| ④串間市 | 「串間市史」 | 平成8年 |
| ⑤串間市教育委員会 | 「串間市遺跡詳細分布調査報告書（II）」 | 1991 |
| ⑥串間市教育委員会 | 「串間市文化財調査報告書」第21集 | 2000 |
| ⑦串間市教育委員会 | 「串間市文化財調査報告書」第22集 | 2001 |



第1図 調査地及び周辺遺跡図(1/25,000)

第1表 県指定古墳一覧表

記号	名 称	所 在 地	指定年月日	備 考	番号	名 称	所 在 地	指定年月日	備 考
A	福島町古墳2号	大字西方字桑ノ木	S8.12.5	円墳	E	同9号(福島塚)	大字西方字塚巡	S8.12.5	円墳
B	同3号(長清見塚)	大字西方字桑ノ木	S8.12.5	円墳	F	同10号(万多城塚)	大字西方字石仏	S8.12.5	前方後円墳
C	同4号(劍城塚)	大字西方字桑ノ木	S8.12.5	前方後円墳	G	同18号	大字西方字羽山道	S8.12.5	円墳(鷹丘溝)
D	同5号(毘沙門塚)	大字西方字桑ノ木	S8.12.5	円墳					

第2表 指定解除古墳一覧表

記号	指定当時の名称	所 在 地	解除年月日	備 考	記号	指定当時の名称	所 在 地	解除年月日	備 考
a	福島町古墳1号	大字西方字南畠	S59.7.20	地下式	g	福島町古墳13号	大字西方字善田原	S59.7.20	円墳
b	同6号	大字西方字塚巡	S59.7.20	円墳	h	同14号	大字西方字合原	S59.7.20	円墳
c	同7号	大字西方字塚巡	S59.7.20	円墳	i	同15号	大字西方字合原	S59.7.20	円墳
d	同8号	大字西方字塚巡	S59.7.20	円墳	j	同16号	大字西方字合原	S59.7.20	円墳
e	同11号	大字西方字東原	S59.7.20	円墳	k	同17号	大字西方字胡麻料	S59.7.20	円墳
f	同12号	大字西方字中坂	S59.7.20	円墳	l	同19号	大字西方字上高野	S59.7.20	円墳

第3表 唐人町・池ヶ迫遺跡及び周辺遺跡一覧表

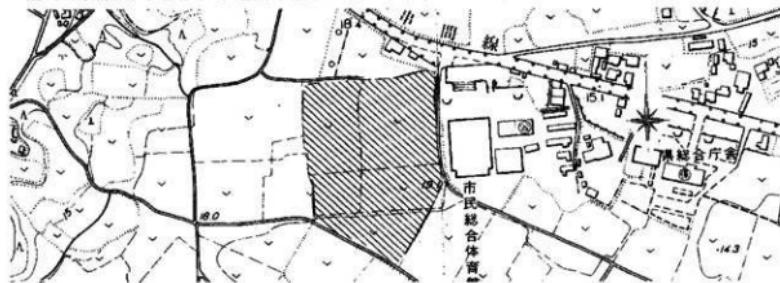
番号	遺 跡 名	時 代	種 別	番号	遺 跡 名	時 代	種 別	番号	遺 跡 名	時 代	種 別
1	唐人町池ヶ迫遺跡	縄文～古墳	包蔵地	15	法木ノ上遺跡	不詳	散布地	29	崩先第1遺跡	古墳	散布地
2	菖蒲ヶ谷遺跡	不詳	散布地	16	桑木遺跡	不詳	散布地	30	崩先第2遺跡	古墳	散布地
3	糸屋戸遺跡	縄文	散布地	17	下高野遺跡	不詳	散布地	31	崩先地下式横穴群	古墳	包蔵地
4	桂原遺跡	弥生・古墳	散布地	18	年ノ神遺跡	古墳	散布地	32	金谷城跡	中世・近世	城 跡
5	徳佐ヶ原遺跡	縄文～古墳	散布地	19	下田口遺跡	弥生	散布地	33	耕屋園遺跡	不詳	散布地
6	客手原第1遺跡	不詳	散布地	20	松尾遺跡	古墳	包蔵地	34	大田井遺跡	弥生	包蔵地
7	客手原第2遺跡	不詳	散布地	21	石佛遺跡	近世	散布地	35	屋治遺跡	不詳	散布地
8	坂ノ上遺跡	近世・不詳	散布地	22	合原遺跡	古墳?	散布地	36	串間遺跡	縄文～古墳	散布地
9	上高野遺跡	不詳	散布地	23	平山遺跡	不詳	散布地	37	中鶴遺跡	古墳?	散布地
10	櫛間城跡	中世・古墳	城 跡	24	本西方遺跡	古墳・中世	包蔵地	38	二ノ山遺跡	不詳	散布地
11	二田里遺跡	不詳	散布地	25	風呂尾遺跡	不詳	散布地	39	植松遺跡	不詳	散布地
12	天神遺跡	古墳?	散布地	26	唐人町遺跡	弥生～中世	包蔵地	40	徳山地下式横穴群	古墳	包蔵地
13	脇ノ山遺跡	不詳	散布地	27	別府ノ木遺跡	縄文～古墳	包蔵地				
14	鳴神遺跡	近世	散布地	28	松清遺跡	不詳	散布地				

第3節 調査地の立地と現況

第2節に記述したように店人町・池ヶ迫遺跡は善田原台地上に所在する。当台地は福島川及び善田川に挟まれる状態で形成される標高約20mの広大なシラス台地で、遺跡はそのほぼ北端に立地する。調査対象地及びその周辺はおおむね畑地で、3面のステージに分けられ、それぞれ約1m比高差で北から南方向に落ちて行く現況を呈している。

第4節 調査の内容

今回、第2次調査として報告する調査対象面積は約11,000m²で、休耕状況に合わせながら可能な畑からトレンチ（1m×3m標準）を設定して調査を実施した。結果として52本のトレンチ調査となつたが、第1次調査の状況で遺物包含層はアカホヤより上層に限られたことから今回もアカホヤ面までを照準とし、これより下層についてはアカホヤ面で遺構が検出されない、安全上可能であるなどの諸条件が整った場合にのみ掘り下げを行つた。各トレンチの状況は第4表に一覧するが、全体的には濃淡はあるものの満遍なく遺物を包蔵する。但し、遺物包含層であるIIからIV層は土質が類似すること、縄文晩期から古墳時代までの遺物が混在する場合が多いことなどにより明分野するには困難な状況にあった。遺物として特徴的なものは縄文晩期、弥生時代、古墳時代の刻目突帶文を有する土器で成川式を含み、中には線刻を有する土器も見られた。遺構はその殆どをアカホヤ面において検出しておらず、ピットは配列を確認するに至っていないものの各トレンチにおいて検出されている。この他では住居跡と思われる遺構や溝状遺構、硬化面などが検出されている。



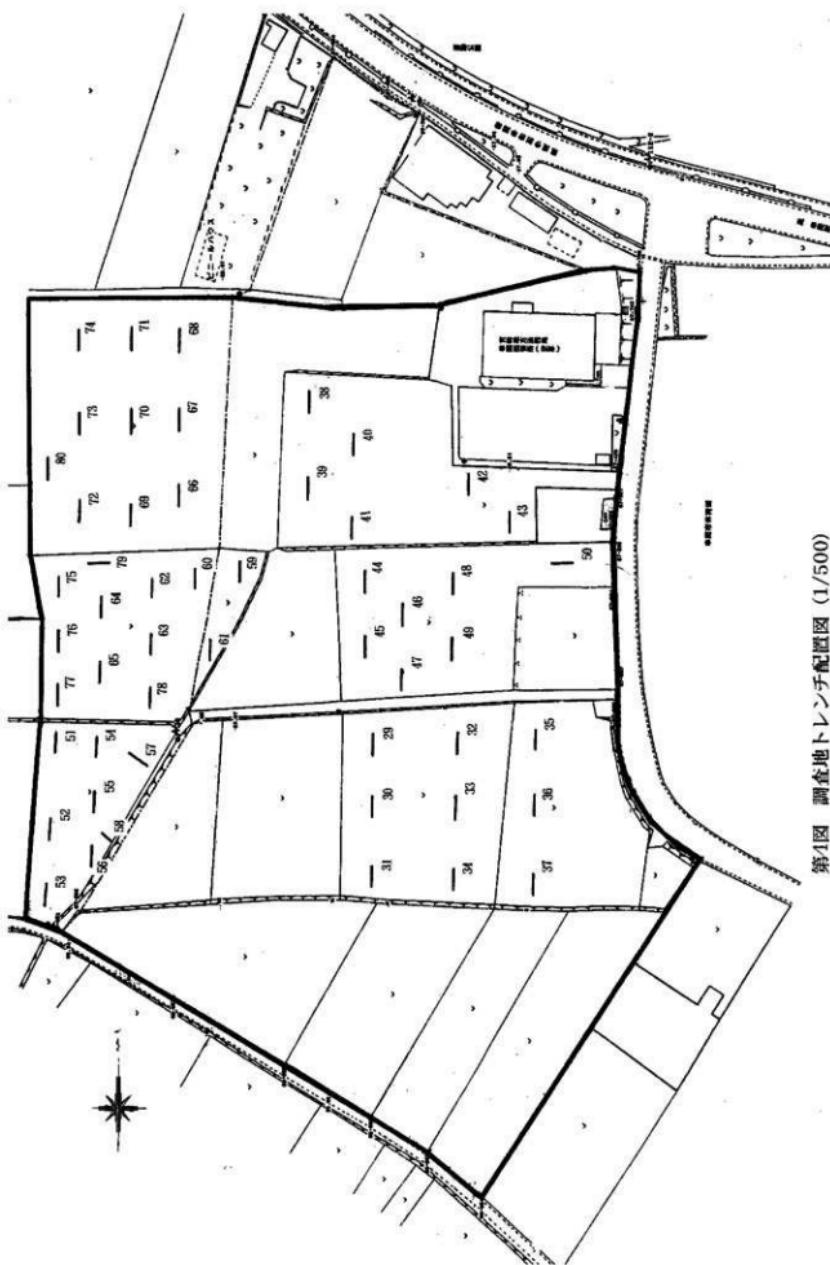
第2図 調査地概要図(1/5,000)

I a
I b
I c
II
III
IV
V
VI
VII
VIII
IX
X

- I層：表土。近現代によると思われる客土・造成土はこれに含め、可能な場合にはa～cの3層に分層。各時代・各種の遺物を包含する。
II層：ゆるい黒色土の包含層。主に古墳時代の遺物を包蔵するが、弥生時代の遺物が混在する場合もある。削平を受けて消滅する箇所もあるが、おおむね残存する。
III層：やや明るいゆるめの黒色土の包含層。縄文時代晩期から弥生時代にかけての遺物を包蔵し、当地の主たる包含層である。
IV層：ゆるい黒色土の包含層。III層に比較すると出土量は減少するが各トレンチで遺物を含む。
V層：御池ボラを含む黒色土で地点により堆積状況に濃淡がある。底部で稀に土器小片を含む場合がある。
VI層：アカホヤ火山灰層。二次堆積と思われる。
VII層：硬質暗褐色土。
VIII層：硬質褐色土。
IX層：薩摩火山灰塊を含む褐色土。
X層：硬質褐色土。

第3図 調査地層序模式図

第1図 調金地トレーン子配置図 (1/500)



第4表 トレーニング状況一覧表

トレーニング番号	包含層	包含層表面までの深度	遺物			遺構	遺構検出面の深度	旧地形	備考
			時代	点数	特記				
29	II層(黒色土)・III層(明黒色土)	50cm	縄文・弥生	30	刻目突帯	III層中位で南北方向の硬化面(幅約30cm)	70cm	南へ傾斜	II層上位は削平を受ける。
30	II層(黒色土)・III層(明黒色土)	60cm	弥生・中世	50	土師皿・焼穢	III層上位で南北方向の硬化面(幅約30cm)	70cm	ほぼ平坦	包含層は良好に残存。
31	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	50cm	弥生・古墳	30	突帯文・焼穢	なし	—	若干南へ傾斜	包含層は良好に残存するが細分は不可
32	III層(明黒色土)	40cm	縄文・弥生	30	刻目突帯	なし	—	若干南へ傾斜	II層は削平を受けて消滅。
33	II層(黒色土)・III層(明黒色土)	70cm	縄文～古墳	30	刻目突帯・打製石斧	なし	—	若干南へ傾斜	包含層は良好に残存。
34	II層(黒色土)・III層(明黒色土)	80cm	縄文～古墳	20	刻目突帯	なし	—	若干南西へ傾斜	包含層は良好に残存。
35	消滅	—	—	—	—	ピット1	30cm	ほぼ平坦	I層の直下はV層となる。
36	消滅	—	—	—	—	近代土坑(長方形)	表土中	ほぼ平坦	I層の直下はV層となる。
37	消滅	—	—	—	—	ピット1	70cm	若干南へ傾斜	I層の直下はV層となる。
38	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	20cm	古墳・中世	10	—	V1層直上で東西方向の硬化面(幅約25cm), ピット2	55cm	ほぼ平坦	II層はリバ南北で消滅。
39	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	50cm	弥生・古墳	30	刻目突帯	なし	—	南へ傾斜	II層は削平を受けて消滅。
40	消滅	—	—	—	—	なし	—	若干南へ傾斜	I層の直下はV層となる。
41	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	50cm	縄文～古墳	50	刻目突帯・焼穢	なし	—	ほぼ平坦	II層は削平を受けて消滅。
42	IV層(黒色土)	40cm	縄文?	5	—	ピット1	70cm	ほぼ平坦	II・III層は削平を受けて消滅。
43	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	4cm	縄文・弥生	10	—	ピット1	110cm	ほぼ平坦	包含層は良好に残存。
44	II層(黒色土)・III層(明黒色土)	50cm	弥生・古墳	20	—	V層直上で硬化面	90cm	若干南へ傾斜	包含層はやや良好に残存。
45	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	50cm	弥生・古墳	50	—	II層上位で北西から南東方向の硬化面(幅約20cm)	50cm	若干南へ傾斜	包含層は良好に残存するが細分は不可
46	II層(黒色土)・III層(明黒色土)	30cm	縄文・弥生	40	刻目突帯	VI層表面で土坑?	110cm	若干南へ傾斜	包含層は良好に残存。
47	II層(黒色土)・III層(明黒色土)	60cm	弥生・古墳	20	—	Ⅴ層上位で洋芋の2/3ほどの面積を占める硬化面, 硬化面内にピット2	130cm	若干南へ傾斜	包含層はやや良好に残存。

第4表 トレンチ状況一覧表

トレンチ番号	包 含 層	包含層表面までの深度	遺 物			遺 構	遺構検出面の深度	旧 地 形	備 考
			時 代	点 数	特 記				
4 8	IV層(黒色土)	30cm	縄文～古墳	30	刻目突帯	なし	—	若干南へ傾斜	II・III層は削平を受けて消滅。
4 9	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	30cm	縄文～古墳	20		VI層でビット1 (径約30cm)	100cm	若干西へ傾斜	II層は削平を受けて消滅。
5 0	IV層(黒色土)	20cm	縄文・弥生	5		なし	—	ほぼ平坦	II・III層は削平を受けて消滅。
5 1	消 滅	—	—	—		なし	—	ほぼ平坦	I層の直下はVII層となる。
5 2	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	30cm	弥生	10	刻目突帯	なし	—	若干南東へ傾斜	II層は削平を受けて消滅。 VI層直上でも若干量の土器出土。
5 3	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	100cm	縄文～古墳	60	刻目突帯	なし	—	若干南へ傾斜	包含層は良好に残存。
5 4	ほぼ消滅	15cm	古墳	10		VII層でビット1 最大は長径32cm、最小では長径23cm。	20cm	ほぼ平坦	僅かに残存する黒色土に遺物が含まれる。
5 5	IV層(黒色土)	70cm	弥生	5		VI層でビット1	110cm	若干南へ傾斜	包含層はトレンチの南側で約20cm堆積するのみ。
5 6	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	40cm	縄文～古墳	130		なし	—	若干南へ傾斜	包含層は良好に残存するが、細分は不可
5 7	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	30cm	弥生・古墳	60	突 带 文・刻 目突帯磨石 (花崗岩)	II層で溝状遺構、 VII層でビット2。	溝状遺構 30cm、ビット 80cm	南東へ傾斜	包含層は良好に残存するが、細分は不可
5 8	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	60cm	縄文～古墳	100		なし	—	南東へ傾斜	包含層は良好に残存するが、細分は不可
5 9	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	80cm	—	—		近代土坑	表土中	若干南へ傾斜	数条の近代土坑が包含層に影響し、遺物は出土していない。
6 0	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	90cm	縄文～古墳	80	刻目突帯	なし	—	ほぼ平坦	包含層は良好に残存するが、細分は不可
6 1	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	100cm	弥生・古墳	50		VI層でビット1	150cm	若干南へ傾斜	II層上位が若干削平を受ける。
6 2	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	50cm	縄文～古墳	60	突 带 文	VI層でビット1	100cm	ほぼ平坦	II層は削平を受けて消滅。
6 3	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	60cm	弥生・古墳	60	刻目突帯	なし	—	ほぼ平坦	II層は削平を受けて消滅。 V層下位に微量の土器小片が含まれる。
6 4	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	50cm	縄文～古墳	160		なし	—	ほぼ平坦	II層は削平を受けて消滅。 V層下位に微量の土器小片が含まれる。
6 5	II層(黒色土)	30cm	弥生・古墳	130	刻目突帯、 成川式、鐵滓	II層で赤変礫の まとまりを含む 十坑。	60cm	ほぼ平坦	土坑検出後で掘削を止める。
6 6	II層(黒色土)・III層(明黒色土)	40cm	縄文～古墳	20	刻目突帯、 成川式	V・VI層でビット各1	V層80cm VI層90cm	ほぼ平坦	包含層は良好に残存。

第4表 トレンチ状況一覧表

トレンチ番号	包 含 層	包含層表面までの深度	遺 物			遺 構	遺構検出面の深度	旧 地 形	備 考
			時 代	点 数	特 記				
6 7	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	30cm	弥生	300		II層からの掘り込みと思われる大型のピットないし土坑	40cm	ほぼ平坦	II層は消滅。他になくV層が厚く堆積する。
6 8	III層(明黒色土)・IV層(黒色土)	30cm	弥生・古墳	10		III層からの掘り込みと思われるピット1	40cm	若干東へ傾斜	III層中位までが削平を受ける。
6 9	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	20cm	弥生・古墳	30	刻目突帯・焼礫	なし	—	南東へ傾斜	II層までランナー跡が入る。
7 0	IV層(黒色土)	20cm	弥生・古墳	5		VI層でピット2～4	50cm	ほぼ平坦	II・III層は削平を受けて消滅。
7 1	IV層(黒色土)	30cm	弥生・古墳	20		ピット1、近代土坑	80cm	若干東へ傾斜	II・III層は削平を受けて消滅。
7 2	消 滅	—	—	—		ピット4	40cm	若干南へ傾斜	I層の直下はVI層。
7 3	消 滅	—	—	—		なし	—	若干南へ傾斜	I層の直下はV層。
7 4	IV層(黒色土)	40cm	縄文・弥生	10	刻目突帯	ピット1	90cm	若干南へ傾斜	II・III層は削平を受けて消滅。
7 5	IV層(黒色土)	50cm	弥生・古墳	15		なし	—	若干南へ傾斜	II・III層は削平を受けて消滅。
7 6	IV層(黒色土)	50cm	弥生・古墳	100	刻目突帯	ピット1、近代土坑	80cm	ほぼ平坦	II・III層は削平を受けて消滅。
7 7	IV層(黒色土)	40cm	弥生・古墳	80		なし	—	若干南へ傾斜	II・III層は削平を受けて消滅。
7 8	II層(黒色土)～IV層(黒色土)	70cm	弥生・古墳	120		VI層で溝状遺構、ピット4	110cm	北へ傾斜	包含層は良好に残存。
7 9	—	—	弥生・古墳	170	ミニチュア土器	VI層で住居跡?	90cm	ほぼ平坦	辺縁のほぼ全面積を占める住居跡と思われる遺構が検出される。
8 0	消 滅	—	—	—		VII層でピット4	30cm	若干南へ傾斜	削平のためかIV層上位までが消滅。

図版1 唐人町・池ヶ迫遺跡調査状況写真



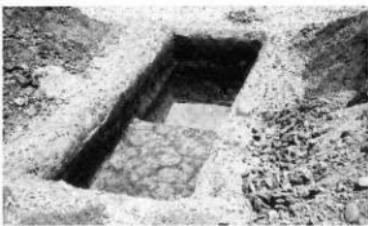
調査地近景



38号トレンチ



39号トレンチ



40号トレンチ



41号トレンチ



44号トレンチ



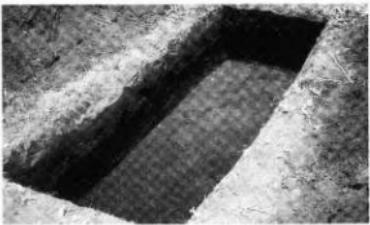
45号トレンチ



46号トレンチ



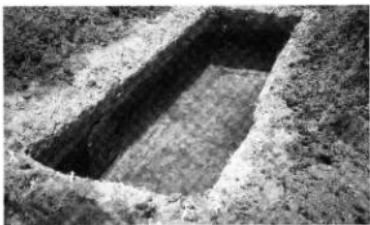
47号トレンチ



48号トレンチ



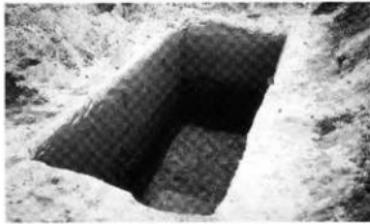
49号トレンチ



50号トレンチ



52号トレンチ



53号トレンチ



54号トレンチ



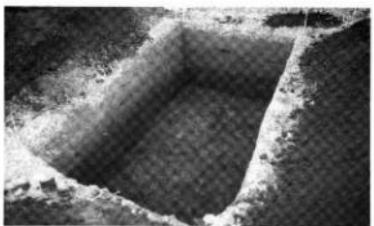
55号トレンチ



5 6号トレンチ



5 7号トレンチ



5 8号トレンチ



6 0号トレンチ



6 1号トレンチ



6 2号トレンチ



6 3号トレンチ



6 4号トレンチ



6 5号トレンチ



6 6号トレンチ



6 7号トレンチ



6 8号トレンチ



6 9号トレンチ



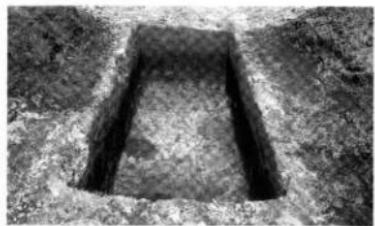
7 0号トレンチ



7 1号トレンチ



7 3号トレンチ



74号トレンチ



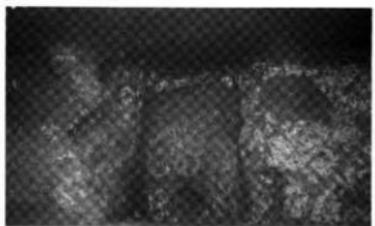
75号トレンチ



76号トレンチ



77号トレンチ



78号トレンチ



78号トレンチ

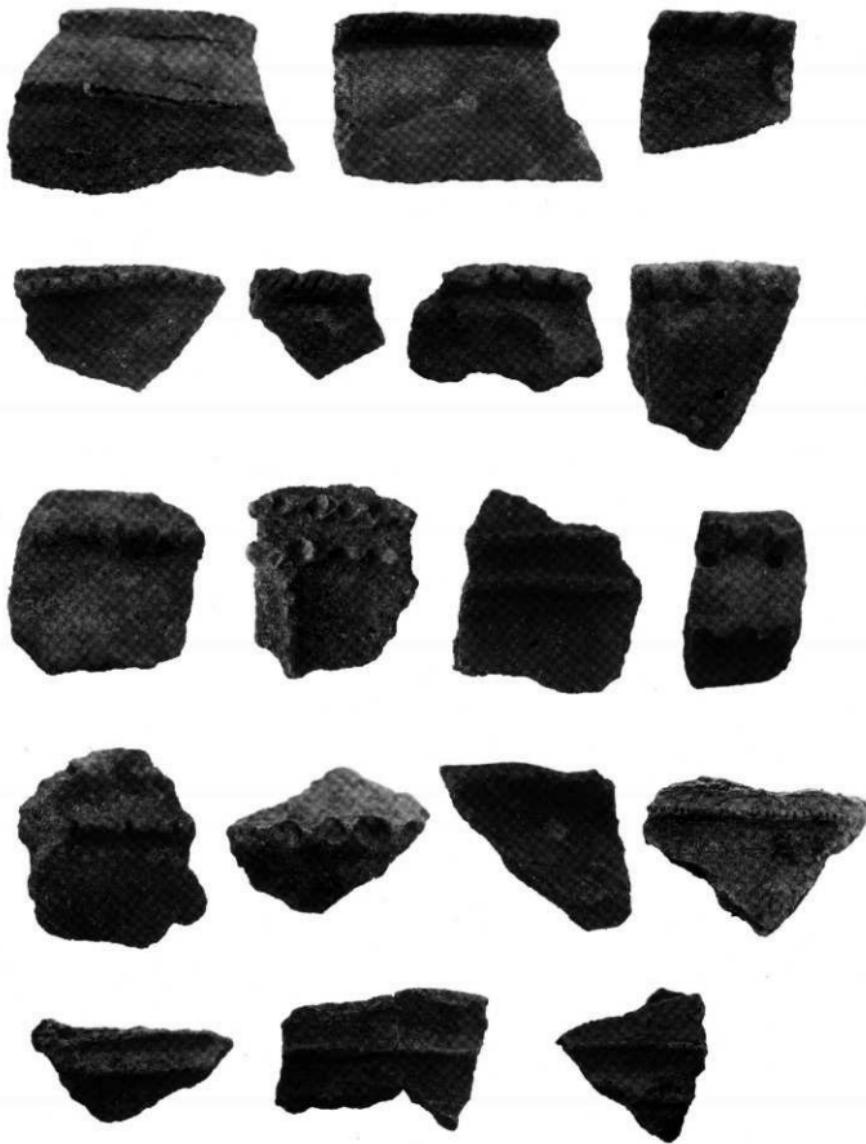


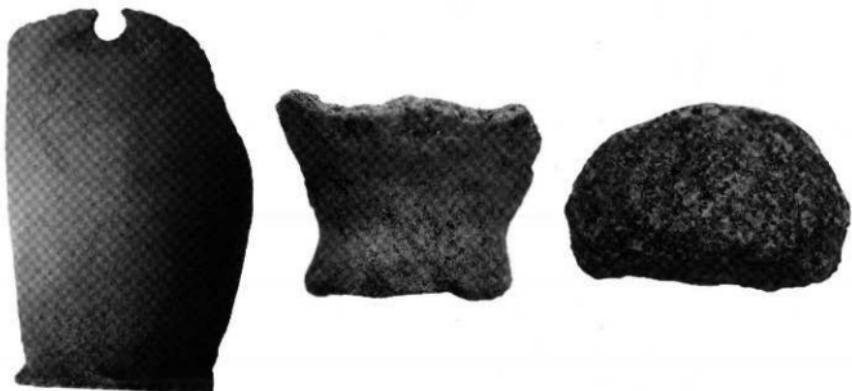
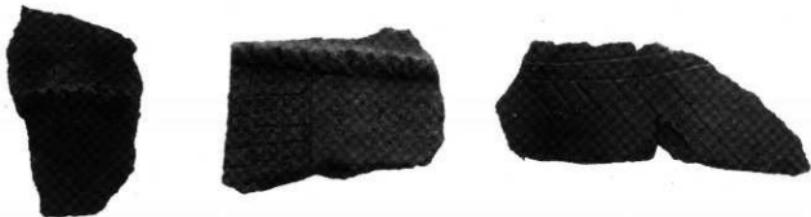
79号トレンチ



80号トレンチ

図版2 唐人町・池ヶ迫遺跡出土遺物写真





報告書抄録

フリガナ	シナイイセキ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	串間市文化財調査報告書
シリーズ番号	第23集
編集者名	宮田浩二
発行機関	串間市教育委員会
所在地	宮崎県串間市大字西方6524-58
発行年月日	平成14年3月29日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
トウジンマチ 唐人町・ イケガザコ 池ヶ迫遺跡	クレマ ニシカタ 串間市大字西方 トウジンマチ 字唐人町	31° 27' 40" 付近	131° 13' 10" 付近	平成12年度 20010301 ~ 20010305 平成13年度 20010709 ~ 20011023	156m ²	病院建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
包蔵地	绳文・弥生・古墳	ピット・溝状遺構 硬化面・住居跡?		刻目突帯文 成川式・線刻文		

串間市文化財調査報告書第23集

市内遺跡発掘調査報告書

2002年3月

発行 宮崎県串間市教育委員会
印刷 (有)串間新生社印刷